

(様式 3 号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 藤村 寛之

〔題名〕

Evaluation of Transmural Healing by Low-dose Computed Tomography Enterography in Patients with Crohn's Disease (クローン病患者における低被曝線量 CT エンテログラフィによる全層性治癒の評価)

〔要旨〕

【背景】全層性治癒 (Transmural healing; TH) は、クローン病の新たな治療標的として注目されているが、日本では TH に関する臨床データはほとんどない。我々は、クローン病のモニタリング法として低被曝線量 CT エンテログラフィ (CTE) を導入し、CTE による TH の評価をレトロスペクティブに検討した。【方法】2009 年 1 月から 2021 年 3 月までに当院で低被曝線量 CTE を施行したクローン病患者のうち、2 週間以内に大腸内視鏡検査またはバルーン内視鏡検査を施行した 122 例を対象とした。放射線検査と内視鏡検査の結果は、それぞれ放射線科医と消化器内視鏡医が独立して検討した。CTE と内視鏡検査の診断の一致率を算出した。【結果】26 名 (21.3%) のクローン病患者が TH を達成し、カッパ係数は 0.743 と 2 人の放射線科医の間でかなりの一致が見られた。TH 群と非 TH 群の比較では、クローン病活動指数 (Crohn's Disease Activity Index; CDAI) (P 値 = 0.02)、内視鏡的治癒率 (P 値 < 0.001)、血清アルブミン (P 値 = 0.043)、血清 C 反応性蛋白 (P 値 = 0.018) に有意差が認められた。122 名の患者のうち、69 名 (56.5%) は CTE の診断と内視鏡検査が一致し、22 名 (18.0%) は TH と内視鏡の両方の治癒を達成した。【結論】本研究は、日本における低被曝線量 CTE によるクローン病のリアルワールドデータを示すものである。本研究で用いた TH の基準はカッパ係数が高く、多くの施設で再現性を持って用いることができると考えられる。

作成要領

1. 要旨は、800 字以内で、1 枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

令和 4年 2月 17日

報告番号	甲 第 1632 号	氏 名	藤村 寛之
論文審査担当者	主査教授	山崎 隆弘	
	副査教授	高見 太郎	
	副査教授	水野 浩規	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Evaluation of Transmural Healing by Low-dose Computed Tomography Enterography in Patients with Crohn' s Disease (クローン病患者における低被曝線量CT エンテログラフィによる全層性治癒の評価)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Evaluation of Transmural Healing by Low-dose Computed Tomography Enterography in Patients with Crohn' s Disease (クローン病患者における低被曝線量CT エンテログラフィによる全層性治癒の評価)			
掲載雑誌名 Internal Medicine 掲載年月 2022年掲載予定			
(論文審査の要旨)			
<p>【背景】全層性治癒(Transmural healing;TH)は、クローン病の新たな治療標的として注目されているが、日本ではTHに関する臨床データは少ない。我々は、クローン病のモニタリング法として低被曝線量CTエンテログラフィ(CTE)を導入しており、CTEによるTHの評価をレトロスペクティブに検討した。【方法】2009年1月から2021年3月までに当院で低被曝線量CTEを施行したクローン病患者のうち、2週間以内に大腸内視鏡検査またはバルーン内視鏡検査を施行した122例を対象とした。CTEと内視鏡検査の結果は、それぞれ放射線科医と消化器内視鏡医が独立して検討した。CTEと内視鏡検査の診断能の一致率についても算出した。【結果】26名(21.3%)のクローン病患者がTHを達成し、カッパ係数は0.743と2人の放射線科医の間でかなりの一致が見られた。TH群と非TH群の比較では、クローン病活動指数(Crohn' s Disease Activity Index; CDAI)(P値 = 0.02)、内視鏡的治癒率(P値 < 0.001)、血清アルブミン(P値 = 0.043)、血清CRP(P値 = 0.018)に有意差が認められた。122名の患者のうち、69名(56.5%)でCTEと内視鏡検査の診断能が一致し、22名(18.0%)はTHと内視鏡的治癒の両方を達成した。【結論】本研究は、日本における低被曝線量CTEによるクローン病のリアルワールドデータを示すものである。本研究で用いたTHの基準はカッパ係数が高く、多くの施設で再現性をもって用いることができると考えられる。</p>			
本研究は、低被曝線量CTEによるクローン病の病態評価について検討した論文である。よって、学位論文として価値あるものと認めた。			